

# 「花のまちづくり」

大竹 絵美



に関心を持つという意識改革が必要なのだと私は思う。

そして、逆にこれからの「まちづくり」を考えた時に、花を植えるというのは取り組みやすいまちづくり

今年の七月に「花year2000 おきたま花まつり」が開催された。この「おきたま花まつり」は実行委員が置賜地方の三市五町から集まった「おきたま研究所」のボランティアメンバーであったこと、そして、花の植え込みを多くの市民ボランティアの方々に手伝って頂いた事は他の花のイベントとは大きく違っていた点だったと思う。

ボランティアの方にイベントのために花の植え込みを手伝ってもらおうという前例のない企画に応募はあるのだろうかという不安があった。それでもこういった企画をしようと考えたのはたくさんの人を巻き込んだイベントにしたいと考えたからだ。ただ、イベントを見るだけではなく、かかわっているという気持ち欲しかった。そして、実際にボランティアを募集してみると、小さなお子さん連れの家族の方や若い世代の方たちもたくさん応募してくれ、ボランティアでも花植えができるという良いきっかけとなった。そして、イベント当日、我々の予想をはるかに超える人たちが来てくれたのはこのボランティアの方々のおかげでもあると思っている。

このイベント、正式には「花year2000花と緑のまちづくりコンクール」と言い、その名前の通り花と緑あふれるまちづくりを目的にしたものだった。前述のイベントはこの事業の中間イベントとして行われたものだった。花が好きで一生懸命育てているお宅はたくさんある。しかし、花好き同士であってもなかなか声は掛けにくいものだ。そういった「点」である花好きの人たちをなんとか「線」にできないだろうか、という発想のもと出来上がったのが「かほるおきたま」という小冊子である。個人だけではなく、企業団体部門や、地域ぐるみで道路沿いの花壇をきれいにしている所も紹介されており、この小冊子をきっかけに花のネットワークができればと思っている。

最近では地域住民が自分たちの街に花を植える「花のまちづくり」がとても盛んになってきた。しかし、まだまだ一部の人たちだけでやっているという所が多い。いくら花を植えてもそこに地域住民が介在していなければ関心は低く、花のまちづくり本来の意味はないのではないかと思う。自分の住んでいる所

の一つなのではないかと思う。花を植えるにも、これまでの白いプランターでは味気ないというならばプランターも厚板で作ってしまえばいいし、そこに子供たちが絵を描いたりすれば自分たちの街の個性を出すことができ、今まで以上に住んでいる街に愛着がわくのではないだろうか。こういった事がまちづくり、なのではないだろうか。

そして最後に、最近はガーデニングブームと言われ植える事がガーデニングのように思われている方が多いようだが、そうではなく植物を育てる事がガーデニングなのだと強く言いたい。植物は使い捨てではない。植物の手入れ方法や育て方が分からないのは、きちんと教えてくれる園芸店が少ないせいでもある。コミュニケーションベタという事もあるのだろうか、インターネットで花の育て方を見てもここは寒冷地山形、標準地とは環境が随分違うのだ。こういった事を少しずつでも解消していき、もっともつと花を育てる心のある山形になって欲しいと心から願う。

(ガーデンプランナー・長井市)